

新年のごあいさつ

2025年1月吉日

明けましておめでとうございます。本年もよろしくおねがいします。

今年は何(へび)年ですが、正確には「乙巳(きのとみ)」という年になります。「乙」は十干(昔の中国の数字)で2番目にあたる文字で、草木がしなやかに伸びる様を表しております。また「巳」は蛇のことで、脱皮と成長を繰り返すことから「不老長寿」を象徴する動物として信仰されております。「乙巳」二つの文字を合わせると、「変化と再生を繰り返し、柔軟に発展していく」という意味を持ちます。

本年は「2025年問題」といわれている年になりますが、団塊世代(1947～1949年生まれ)の方々が75歳の後期高齢者となられ、国民の5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えることになり、「社会保障費の増加」「労働人口の減少」「医療介護人材の不足」が懸念されております。

昭圭会としても「乙巳」にあやかり、「2025年問題」という「変化」に「柔軟に」対応し「発展」していくという決意のもと、地域の皆さまに更なる貢献ができるよう新たに1年を過ごして参ります。

本年は「2025年問題」といわれる年でもありますが、兵庫県民として忘れることのできない1995年1月17日に起きた「阪神・淡路大震災」の30年の節目にあたる年にもなります。当時私は18歳で大学受験を控えておりましたが、結果見事に全て不合格でした(震災のせいではなく勉強してなかっただけなのですが)。

電気がつかないと叫んでいる母、箆筒の間から這い出てきた弟、梯子に登って2階の窓ガラスを割って助けた動けない叔母、遠くに見える煙、倒木で通れない道、1階が潰れた家屋、路上で茫然と座り込むおじさん、血だらけで駆け込んでくるおばあさん、患者さんが廊下いっばいに横たわっている病院、いまでも胸が痛みます。

でも、ご飯をただでくれたお店の人、炊き出しの場所を教えてくれたおばあさん、水汲みしやすい場所を教えてくれたおじさん、お風呂を造ってくれた自衛隊の皆さん、電気も水もない病院で働く医師や看護師の皆さん、見ず知らずの人がお互いを思い助け合う大切さを教わりました。

東北、能登、新潟、熊本、みなさん同じ想いをされていると思うと心が痛みますが、それでも前を向いて生きていかなければなりません。穏やかな日々が続き、今日よりも明日は健やかであるように願い、亡くなられた方々に鎮魂の祈りを捧げたいと思います。

医療法人 昭圭会 理事長
伊藤 秀裕